

小児期における給食の実態 (オ4報) 保育所給食各栄養素量の相互関係  
とその地域比較

甲子園短大 富田絹子 ○西田美枝子 山下慶子

目的 昨年度の本大会においてA市(44所)N市(26所)保育所給食の摂取栄養量はほぼ厚生省基準値を充足していることを報告したが、さらにS市保育所(17所)を加えて、栄養素量の相互関係を明らかにし、その地域比較を行なったので報告する。

方法 調査対象は昭和55年度保育所給食3才未満児, 3才以上児献立表でA市303日分, N市296日分, S市296日分である。追加したS市給食についてはA市, N市と同様栄養素10項目を三訂補食品成分表より算出, 各々について $\bar{x}$ , SDなどを求めた。更に三市各々について, 3才未満児, 3才以上児別に10項目間の相関行列を作成し, 三市の比較を行った。

結果 1. 栄養素量の三市比較 差の検定(t検定)によればA市N市間では熱量, 糖質, 蛋白質, 動物性脂質に正, Fe, VA, B<sub>1</sub>, B<sub>2</sub>, Cに負, A市S市間では糖質, 動物性蛋白質, 動物性脂質, Caに正, N市S市間では蛋白質, 動物性脂質, Ca, Fe, VA, B<sub>2</sub>, Cに正の有意差が認められた。未満児, 以上児ともN市給食の脂質, Ca, Fe, VA, B<sub>2</sub>, CはA市S市給食より高値を示した。S市給食はA市N市給食より動物性蛋白質, 動物性脂質, Ca, Fe, カロチンが低値を示した。2. 各栄養素間の相関行列より 熱量と蛋白質, 脂質と糖質間は当然高水準の相関があるが未満児, 以上児ともに1%の有意水準を示したものは, A市給食では「蛋白質と脂質」「CaとV.B<sub>1</sub>」「脂質とCa, V.B<sub>1</sub>」「CaとFe」「FeとVA, Ca」などでN市給食では、「FeとVA, B<sub>2</sub>」「VAとB<sub>2</sub>」(特に高い相関), 3才未満では「蛋白質とCa, Fe, B<sub>1</sub>」の間に, S市給食では、「糖質とV.B<sub>1</sub>」「蛋白質と脂質, Ca, Fe, B<sub>2</sub>」「脂質とCa, B<sub>2</sub>」「CaとFe, B<sub>2</sub>」「VAとB<sub>2</sub>」「B<sub>1</sub>とV.C」などであって, 都市によりやや異った傾向を示した。